

## 株苦東 第 15 回経営諮問委員会議事録

- 1 日 時 平成 23 年 5 月 20 日 (火) 13:00~14:15
- 2 場 所 札幌市中央区北 3 条西 4 丁目 1 ホテル札幌ガーデンパレス
- 3 出席者 9 名中 7 名出席
- 4 議 題 (1)平成 22 年度経営概況  
(2)第 4 次中期目標達成状況(案)及び第 5 次中期目標(案)  
(3)平成 23 年度事業計画  
(4)北海道・苫小牧東部地域を活用した大規模避難者居住施設整備構  
想(もしもの街)

### 5 議事要旨

#### (1) 平成 22 年度経営概況

22 年度の損益見込みが売上 7.3 億円、経常利益約 1.7 億円となることについて概要報告がなされた。

株主還元については、事業運営に必要な資金及び臨海臨港地区基盤整備を留保した上で、1.1 億円(100円/株)の還元を行いたい旨の説明がなされた。

#### (2) 第 4 次中期目標達成状況(案)及び第 5 次中期目標(案)

第 4 次中期目標では分譲面積 40ha に対して 26ha の実績に留まり、株主還元も 11.3 億円となること、第 5 次中期目標では、「苫東価値の実現に向けて」というサブタイトルを付し、用地分譲の促進(目標 40ha)、環境重視型産業地域としての価値創造等を目標に掲げたことについて説明があった。

#### (3) 平成 23 年度事業計画

23 年度は、売上高約 14.5 億円、経常利益約 2.4 億円を目指す旨報告された。

#### (4) 北海道・苫小牧東部地域を活用した大規模避難者居住施設整備構想(もしもの街)

東日本大震災を踏まえ、大規模災害に備えた街づくり構想について積極的に検討を進める旨説明がなされた。

これらの説明を受けて、次のような意見があった。

～今後の企業誘致の進め方について～

- 中期目標を作成して着実にやっていくことは非常に良いことであり、企業誘致に向けて一層努力してほしい。
- エネルギー問題や危険分散の問題から立地について企業の考え方が変わってくる。土地を売り急ぐ必要はなく、中期目標にあるとおり一定の理念に基づいた企業群の立地を目指す努力をしてほしい。
- 危険分散も含めて北海道の役割は何か、その中でエネルギー面など苫東の役割は何か議論が必要。
- (大震災は)地震、津波、原発事故、放射能、電力の供給障害が複合的かつ同時に起き、さらにサプライチェーンの途絶という未経験の問題が発生。今後の企業立地のあり方に大きくかかわってくる。
- 価格面も含めた土地の売り方という点についても分析して企業誘致に努めてほしい。
- 競争力のある土地価格とするよう、関係機関と一緒にあって優遇措置などを考えて行ってほしい。

～「もしもの街構想」について～

- 土地はあるものの住民ニーズとのミスマッチが発生していた。現在、仮設住宅はほぼ目処がついた状態。
- 長期的に首都圏などの大規模な災害に向けての苫東の役割を一緒に検討していきたい。
- 大災害は今後必ず起こるという前提で生産機能の分散などを検討していく必要がある。
- 本構想のようにアジアに対する貢献も含めて、いろいろなものをアピールしていく必要がある。首都機能の受け入れもある。北海道や苫東の有位性があるのではないか。
- 平時の利用も想定した緊急時の物資の備蓄施設を作り、全国に配置することは非常に意味がある。苫東だけの話ではなく、日本のためにもなる、日本人のためにもなる、といった点から構想の肉付けをしてほしい。
- 仮設住宅を建てないで置いておき、災害があった場合に一時避難施設として活用する方策に可能性がある。
- 被災者の北海道への移住は雇用創出とセットの話。

- 電力多消費型産業構造から今後は電力節約型の産業構造に変化していくことが想定される。その中で北海道はどう動いていくか。
- 緊急物資の備蓄センターを実現していくことも苫東の一つの柱になる。比較的定住型に近い「もしもの街」の前の段階のニーズがよりクリアに存在するのではないか。
- 企業誘致は空洞化の問題などから難しい局面に入っているが、エネルギーパラダイムの転換やICT基盤インフラの分散という点から、苫東は有利なポジション。メガソーラーとデータセンターを中期目標に位置づけ、行動を開始すべき。

以 上